

米経済の衰退とともに戦争の脅威が増す

【訳者注】特に最後のページの、ナチス・ドイツに対する戦勝記念日の演説でのプーチンの言葉に注目していただきたい。ナチスを敗退させたのは、圧倒的に戦死者の多かったソ連軍の力であったにもかかわらず、プーチンは、米、英、仏軍に対する謝辞を忘れなかった。オバマはこの日、自国のことしか言わなかった。欧米の真似をしてプーチンを悪魔にしたがる日本の新聞は、こんなことを無視するか、悪人特有の偽善だとでも言うだろう。これまでのプーチンの言葉の端々に注意している者には、決してそんなふうには聞こえない。

By Paul Craig Roberts

May 11, 2015

2015年5月7日、ニューオーリンズでの Financial West Group 年次大会 における P・C・ロバーツの基調講演

我々のこの時代を決定した出来事は、ソビエト連邦の崩壊、9・11、雇用の海外流出、金融の統制撤廃である。こうした出来事の中に、我々の外交政策問題と経済問題の根源が見出される。

アメリカは常に、自分自身を高く評価してきたが、ソビエトの崩壊とともに、その自己満足は新しい頂点に達した。我々は例外的国民、不可欠の国民、世界に覇権を及ぼす、歴史によって選ばれた国家になった。このネオコン [注、そのほとんどがユダヤ人] の教義は、アメリカ政府を国際法の規制から解放し、世界を自分自身の姿に合わせて作り替えるために、ワシントンが主権国家を強制することを許している。

ソ連崩壊から生じた、ワシントンの独占的なユニパワー (単一権力) 体制を保護するために、Paul Wolfowitz は 1992 年、“ウォルフオウィッツ・ドクトリン” と呼ばれるものを起草した。この教義がワシントンの海外政策の基礎になっている。それはこう言っている――

「我々の第一の目標は、旧ソ連の領土であろうと、他のどこであろうと、ソ連が以前に与えたような規模の脅威を与える、新しいライバルの再出現を防止することである。これが新しい地域的防衛戦略の根底にある支配的な考え方であり、それは、その資源を強力な支配下に置いて、地球的な権力を生み出すのに十分な地域を、何であろうと敵の権

力が支配するのを、我々が努力して防止することを要求するものである。」

今年 3 月、外交問題評議会（CFR）はこのドクトリンを中国にまで延長した。

ワシントンは今、2つの大きな核武装国の台頭を妨げようと決意している。それが、ワシントンがウクライナに危機をつくり出し、それを反ロシア・プロパガンダに用いていることの原因である。中国が今、アジアへの“軸足転換”によって対決の対象になっていて、そのため、米海軍と空軍の新しい基地を建設して、今は“米国家利益”の領域と呼ばれている南シナ海を、ワシントンが支配できるように図っている。

9・11 テロは、中東での覇権を狙うネオコンの戦争を始めるためだった。9・11 はまた、国内的には警察国家をつくり出すきっかけとなった。国内で市民の自由が縮小する一方で、アメリカはほとんど 21 世紀の全期間、戦争を行っている。これには、Joseph Stiglitz と Linda Bilmes によれば、少なくとも 6 兆ドルが支出されている。これらの戦争は非常に悪い事態を招いた。それは、重要なエネルギーを産出する地帯の政府を、次々に不安定化させ——彼らを鎮圧することが戦争の公的な理由となる“テロリスト”を、大幅に増加させた。

ソ連の崩壊がアメリカの覇権のきっかけとなったように、それは雇用の海外流出のきっかけとなった。ソ連の崩壊によって、中国やインドは、彼らの巨大な未利用の労働市場をアメリカの資本に開放するようになった。アメリカの企業は、大きな小売業者やウォール街の金融的占領の脅威に押された、気の向かないものも含めて、ソフトウェア産業のような、製造工業の取引可能な専門的サービス業を、海外に移動させた。

これはアメリカの中産階級を弱体化させ、向上の梯子を取り払った。アメリカの GDP と課税ベースは、雇用と共に中国とインドに移行した。アメリカの実質の中間家族収入は、成長をやめて下降した。経済を動かす収入の成長がないのに、アラン・グリーンズパンは、消費者負債制度（consumer debt）の拡大に解決を求めたが、これはその運命をたどった。現在、経済を促進するものは何もない。

海外雇用によって生み出された商品やサービスが、アメリカへ逆流して売られると、それらは輸入品となり、貿易のバランスを更に悪化させる。外国人は彼らの貿易の剰余金をアメリカの債券、株式、会社、不動産を買うのに利用する。したがって、利子、配当金、資本利得、賃貸料などは、アメリカから外国へ方向を転ずることになる。これが経常赤字を悪化させている。

大幅な経常赤字に直面して、ドルの交換価値と、“大きすぎて倒れようがない銀行”のバラ

ンス・シートを支えるためのカネの製造を保護するために、ワシントンは、日本とヨーロッパの中央銀行に大量にカネを印刷させている。円とユーロの印刷は、ドルの印刷を相殺して、ドルの交換価値を保護することになる。

商業銀行と投資銀行を分離した **Glass-Steagall** 法は、2期目のクリントン政権の間の全面的な廃止に先立って、すでに無効になっていた。この廃止と、**over the counter derivatives**（店頭金融派生商品）の規制をしなかったこと、投資家に対する **position limits** の撤廃、それに、反トラスト法の死文化から生じた膨大な金融集中が一緒になって、生み出されたものは自由市場のユートピアでなく、深刻な、現行の金融危機であった。この危機のために発令された **liquidity**（換金性、流動性）は、株と証券市場のバブルを生み出した。

含まれる意味、結果、解決：

ロシアが、オバマ政権のシリア侵略計画とイラン爆撃の意図を阻止したとき、ネオコンたちは、彼らが10年間も中東とアフリカでの、彼らの戦争に夢中になっている間に、プーチンがロシアの経済と軍隊を立て直していたことに気づいた。

ウォルフォウィッツ・ドクトリンの最初の目標——新しいライバルの再出現を防ぐこと——が破られた。アメリカに「ノー」を突きつけているロシアがここにある。英議会は、イギリスが、アメリカのシリア侵略に参加しない票決をすることによって、これに加わった。単一権力の立場は揺らいだ。

これがネオコンの注意を、再び中東からロシアに向け直させた。過去十年の間にワシントンは、台頭してくるはずのウクライナの政治家と、[旧政権への]抗議のために道路に送り出すための非政府組織を援助するために、50億ドルを投資していた。

ウクライナの大統領 [ヤヌコヴィッチ] が、提案されたウクライナと EU の連合のコスト分析をしたとき、それが割に合わぬことがわかって、彼はそれを拒否した。その時点でワシントンは NGO を道路に呼び集めた。そこへネオ・ナチスが暴力を加え、暴力への防備をしていなかった政府は崩壊した。

ビクトリア・ヌーランド [米国務補佐官] とジェフリー・パイアット [駐ウクライナ米大使] が、新しいウクライナ政府を選び、ウクライナに一つの従僕政権を樹立した。

ワシントンはこのクーデタを利用して、ロシアを、その黒海の海軍基地、ロシアの唯一の不凍港から追い出そうとした。しかし、何世紀もの間ロシアの一部であったクリミアは、国民

投票によってロシアに帰ることを決めた。ワシントンは欲求不満だったが、失望から回復して、クリミアの自己決定を、ロシアの侵略であり [不当な] 併合だと言った。ワシントンはこのプロパガンダを通じて、ヨーロッパのロシアとの経済的・政治的関係を、ロシアに制裁を加えるようにヨーロッパに圧力をかけることによって、断絶させようとした。

この制裁はヨーロッパに不利な影響を与えた。その上ヨーロッパの人々は、ワシントンのますます露骨な好戦性を心配している。ヨーロッパはロシアと反目することによって何も得るものはなく、戦争に押しやられるのを恐れている。ヨーロッパ政府の中には、ワシントンから独立した外交政策を考えているものもある。

悪質な反ロシア・プロパガンダとプーチンの悪魔化は、ロシアの西側に対する信頼を失わせてしまった。NATO 司令官の Breedlove が、もっと多くのカネ、もっと多くの軍隊、もっと多くのロシア国境の基地を要求することによって、状況は陰悪になっている。モスクワへの直接的な軍事的挑戦によって、ワシントンは、ウクライナとグルジア——2つの前ロシア領——を NATO に取り込もうとしている。

経済の面から見れば、準備通貨としてのドルは全世界にとって問題である。制裁と、アメリカの金融帝国主義の他の形が、大国を含めた諸国家に、ドルによる支払システムを棄てさせようとしている。外国との取引が、ますます米ドルに頼らないで行われるようになるにつれて、ドルの需用が低下するが、供給は“量的緩和”の結果、大きく拡大している。海外生産とアメリカの輸入依存のために、ドルの交換価値の落ち込みが国内インフレーションとなって現れ、アメリカの生活水準をさらに低下させ、株や公債や貴金属市場の人為操作を危うくするであろう。

量的緩和の本当の理由は、銀行のバランス・シートを支えるためである。しかし公的な理由は、経済を刺激し、経済の回復を支援することである。回復の唯一のしるしは、デフレーターが小さくなっているためにのみ、プラスとして現れる真の GDP である。

証拠から、経済的回復が起こっていないことは明らかである。最初の四半期の GDP がマイナスで、第 2 四半期もまたマイナスになりそうであれば、今年の夏には、長期下降の 2 番目の折れ線が始まる可能性が大きい。

その上、現在の高い失業率 (23 パーセント) は、これまでの失業率とは違っている。戦後の 20 世紀には、連邦準備銀行は、経済をクール・ダウンさせることでインフレに対処した。販売は下降し、在庫品は増加し、レイオフ (一時解雇) が起こった。失業が増えるとともに、Fed がコースを逆転させると、労働者たちは元の仕事に戻ったものだ。今日では、仕事も

はや存在しない。それらは海外へ移されている。工場はなくなっている。労働者を呼び戻す仕事がないのだ。

経済を回復させるには、オフショアリング（海外移出）を逆転させて、仕事をアメリカへ戻すことが要求される。これは、企業が課税される方法を変えることによって可能となる。企業利益に対する税率は、企業がアメリカで販売する製品に価値を付加する地理的場所によって、決めることができるだろう。もし製品やサービスが海外で生み出されたのなら、税率は高くなるだろう。もし商品やサービスが国内で生み出されたものなら、税率を低くすることができる。税率は、海外生産のより低いコストを相殺するように決めることができる。

国家間企業とウォール街のロビーイングの力を考えれば、これはありえない改革である。私の結論は、アメリカ経済が下降線をたどり続けるだろうということである。

外交政策という面において、アメリカが他国に対する覇権的権利をもった“例外的な、不可欠の”国だという、アメリカの自画像の思い上がりと傲慢は、世界が戦争の準備をさせられていることを意味する。ロシアも中国も、英、独、仏や他のヨーロッパ諸国、カナダ、日本、オーストラリアが受け入れている従僕国の地位を、受け入れようとはしない。“ウォルフォウィッツ・ドクトリン”は、世界平和を得ようと思えば、世界がワシントンの覇権を受け入れることが必要だと言っている。

したがって、ドルと共にアメリカの権力が崩壊するか、または、ヨーロッパがワシントンと縁を切り、独立した外交政策を追究する勇気をもって、NATO に別れを告げない限り、核戦争が我々の未来になりそうである。

ワシントンの侵略と厚かましいプロパガンダは、ロシアと中国に、ワシントンが戦争を意図していると確信させ、この理解がこの 2 国を戦略的同盟へと導いた。ヒトラーを敗退させたロシアの 5 月 9 日の「先勝日記念祝典」は、歴史的なターニング・ポイントである。西側の各政府は祝典をボイコットしたが、中国要人はそこにいた。歴史上初めて、中国軍兵士がロシア軍兵士と共にパレードし、中国主席がロシア大統領の横に坐っていた。

The Saker のモスクワ祝典についての報告は興味深い。 <http://thesaker.is/todays-victory-day-celebrations-in-moscow-mark-a-turning-point-in-russian-history/> 特に注目すべきは第二次大戦の戦死者の表である。ロシアの戦死者の数を、米、英、仏の戦死者を合わせたものと比較すると、ヒトラーを敗退させたのがロシアだったことが明らかになる。オーウェル流の西側では、最近の歴史の書き換えによって、赤軍がドイツ国防軍（Wehrmacht）を全滅させたという事実が、物語から省かれている。書き直された歴史に符節を合わせて、ド

イッ降伏の 70 周年記念についてのオバマの言葉は、米軍だけをあげていた。これと対照的に、プーチンは、「この勝利に貢献された、大ブリテン、フランス、それにアメリカ合衆国の方々」に感謝の意を表明した。 <http://thesaker.is/15865/>

もう何年にもわたってロシア大統領は、西側がロシアの言うことに耳を傾けないと、公的に強調している。ワシントンとそのヨーロッパの従僕国、カナダ、オーストラリア、日本は、ロシアが「そんなに我々を押しさないでほしい、我々はあなた方の敵ではない。我々はあなた方のパートナーになりたいのだ」と言っているのを聞こうとしない。

ワシントンが耳を傾けることなく時が過ぎていくにつれて、ロシアと中国は、彼らの選択が従僕になるか戦争かのどちらかだと理解した。国連安保理、米國務省、またはペンタゴンに、少しでも聡明で理解のある人物がいたら、ワシントンは、不信の種を撒くネオコンの政策を警戒して退けたであろう。しかし政府を支配するのはネオコンの傲慢だけで、ワシントンは人類にとって致命的なこの過ちを犯した。

(ポール・クレイグ・ロバーツ博士は、元経済政策担当財務補佐官、Wall Street Journal 共同編集者。またコラムニストとして、Business Week, Scripps Howard News Service, Creators Syndicate に執筆し、多くの大学で講義している。彼のインターネット・コラムは世界的にファンを集めている。ロバーツの最新著は、*The Failure of Laissez Faire Capitalism and Economic Dissolution of the West* および *How America Was Lost*。)